

自然変換の定義について

alg-d

http://alg-d.com/math/kan_extension/

2016年8月28日

自然変換の定義に現れる可換図式は一体何なのか? と思ったことはないだろうか. 関手の定義は, 要は《演算》と交換するということだから, 「圏の準同型」だと思えば当然の定義である. では「関手の準同型」であるべき自然変換の定義は何なのだろうか. 何らかの《演算》と交換するという事なのか?

それを述べるために, 一旦自然変換の定義は忘れて, 次の定義をする.

定義. Cartesian 閉圏とは次の条件を満たす圏 C のことである.

- (1) C は有限直積を持つ.
- (2) 任意の $c \in C$ に対して $- \times c$ は右随伴 $(-)^c$ を持つ. 即ち, $a, b \in C$ に関して自然な全単射

$$\mathrm{Hom}_C(a \times c, b) \cong \mathrm{Hom}_C(a, b^c)$$

が成り立つ.

例えば集合の圏 \mathbf{Set} は Cartesian 閉圏である.

さて, 圏の圏 \mathbf{Cat} は Cartesian 閉圏だろうか? これは勿論 YES であって, 圏 B, C に対して B^C を関手圏とすればよい. ところが我々は今自然変換の定義を忘れていたので, 関手圏は定義できない. そこで \mathbf{Cat} が Cartesian 閉圏であるという仮定をしよう. すると圏 B, C に対して圏 B^C が (具体的にどんなものかは分からないが) 存在し, 圏 A, B に関して自然な全単射

$$\mathrm{Hom}_{\mathbf{Cat}}(A \times C, B) \cong \mathrm{Hom}_{\mathbf{Cat}}(A, B^C) \quad (1)$$

が存在することになる. 今 $\mathbf{1} = \{*\}$ を一点圏とすれば, 圏 B^C の対象と関手 $\mathbf{1} \rightarrow B^C$

は一対一に対応する．故に

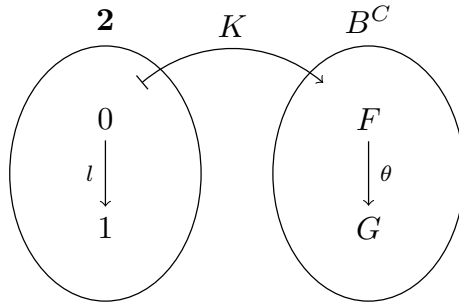
$$\text{Ob}(B^C) \cong \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{1}, B^C) \cong \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{1} \times C, B) \cong \text{Hom}_{\text{Cat}}(C, B)$$

となる．つまり圏 B^C の対象とは関手 $C \rightarrow B$ のことだと思ってよい．

次に圏 $\mathbf{2} = \{0 < 1\}$ を考える．射 $0 \rightarrow 1$ を l と書くことにする．圏 B^C の射は関手 $\mathbf{2} \rightarrow B^C$ と一対一に対応する．従って

$$\text{Mor}(B^C) \cong \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{2}, B^C) \cong \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{2} \times C, B)$$

となる．関手 $K: \mathbf{2} \rightarrow B^C$ に対応する射を $\theta \in \text{Mor}(B^C)$ とするとき $K(l) = \theta$ であり， $K(0) = \text{dom}(\theta)$ ， $K(1) = \text{cod}(\theta)$ である． $F := K(0)$ ， $G = K(1)$ と置く．



$F, G: C \rightarrow B$ は関手であり， θ は F から G への射となる． K に対応する関手を $T: \mathbf{2} \times C \rightarrow B$ とする． $0 \in \mathbf{2}$ に対応する関手を $0: \mathbf{1} \rightarrow \mathbf{2}$ と書けば，(1) が圏 A について自然だから

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{1} & \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{1}, B^C) & \xrightarrow{\cong} \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{1} \times C, B) \cong \text{Hom}_{\text{Cat}}(C, B) \\ \downarrow 0 & \uparrow -\circ 0 & \uparrow -\circ(0 \times \text{id}_C) \\ \mathbf{2} & \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{2}, B^C) & \xrightarrow{\cong} \text{Hom}_{\text{Cat}}(\mathbf{2} \times C, B) \end{array}$$

は可換である．よって $K: \mathbf{2} \rightarrow B^C$ の行き先を見れば $K(0) = T(0, -)$ が分かる．同様にして $K(1) = T(1, -)$ も分かる．故に $a \in B$ に対して $Fa = T(0, a)$ ， $Ga = T(1, a)$ である．また $f: a \rightarrow b$ に対して $Ff = T(0, f) = T(\text{id}_0, f)$ ， $Gf = T(1, f) = T(\text{id}_1, f)$ となる． $\theta_a := T(l, \text{id}_a): Fa \rightarrow Ga$ と定義すれば，この $\{\theta_a\}_{a \in C}$ は自然変換 $F \Rightarrow G$ を定める．実際， $f: a \rightarrow b$ を C の射としたとき，圏 $\mathbf{2} \times C$ において

$$\langle \text{id}_1, f \rangle \circ \langle l, \text{id}_a \rangle = \langle l, f \rangle = \langle l, \text{id}_b \rangle \circ \langle \text{id}_0, f \rangle$$

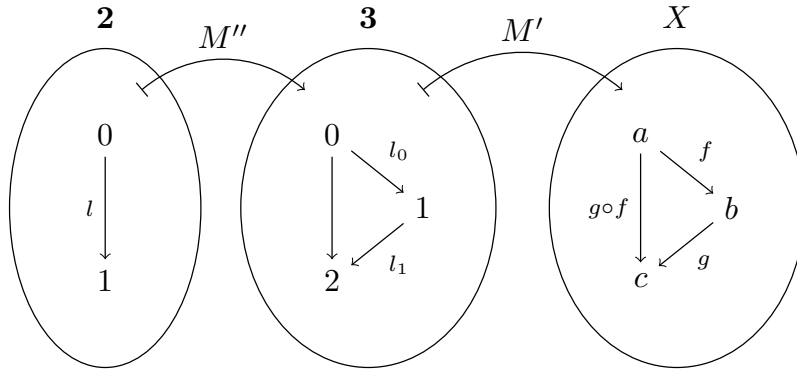
となるから $Gf \circ \theta_a = T(\text{id}_1, f) \circ T(l, \text{id}_a) = T(l, \text{id}_b) \circ T(\text{id}_0, f) = \theta_b \circ Ff$ が分かる．

つまり，自然変換の定義は Cartesian 閉圏という条件から出てくるのである．

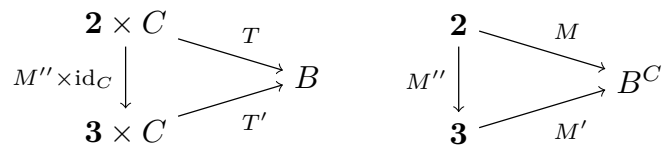
ちなみに，自然変換の合成の定義もここから出てくる．一般に，圏 X の射 $f: a \rightarrow b$ ， $g: b \rightarrow c$ に対応する関手 $K, L: \mathbf{2} \rightarrow X$ を取ったとき， $g \circ f$ に対応する関手 $\mathbf{2} \rightarrow X$ は次のように与えられる．まず $\mathbf{3}$ を順序集合 $\{0 < 1 < 2\}$ を圏とみなしたものとして， l_0 を射 $0 \rightarrow 1$ ， l_1 を射 $1 \rightarrow 2$ とする．関手 $M': \mathbf{3} \rightarrow X$ を

- $M'(0) := a$ ， $M'(1) := b$ ， $M'(2) := c$
- $M'(l_0) := f$ ， $M'(l_1) := g$

で定め，関手 $M'': \mathbf{2} \rightarrow \mathbf{3}$ を $M''(0) := 0$ ， $M''(1) := 2$ で定める．これらの合成 $M := M' M'': \mathbf{2} \rightarrow X$ に対応する X の射が $g \circ f: a \rightarrow c$ である．



さて $\theta, \sigma \in \text{Mor}(B^C)$ を $\text{cod}(\theta) = \text{dom}(\sigma)$ となるように取る． θ, σ に対応する関手 $K, L: \mathbf{2} \rightarrow B^C$ を取り，上で述べたように関手 M, M' を定義する． M に対応する射が $\sigma \circ \theta \in \text{Mor}(B^C)$ であるから， M に対応する関手 $T: \mathbf{2} \times C \rightarrow B$ を取れば $(\sigma \circ \theta)_a = T(l, \text{id}_a)$ となる．次に $M': \mathbf{3} \rightarrow B^C$ に対応する関手 $T': \mathbf{3} \times C \rightarrow B$ を取ると $T(l, -) = T'(M''(l), -) = T'(l_1 \circ l_0, -)$ である．



従って $T'(l_1 \circ l_0, \text{id}_a) = T(l, \text{id}_a) = (\sigma \circ \theta)_a$ が分かる．一方

$$T'(l_1 \circ l_0, \text{id}_a) = T'(l_1, \text{id}_a) \circ T'(l_0, \text{id}_a) = \sigma_a \circ \theta_a$$

となるから $(\sigma \circ \theta)_a = \sigma_a \circ \theta_a$ であることが分かる．